

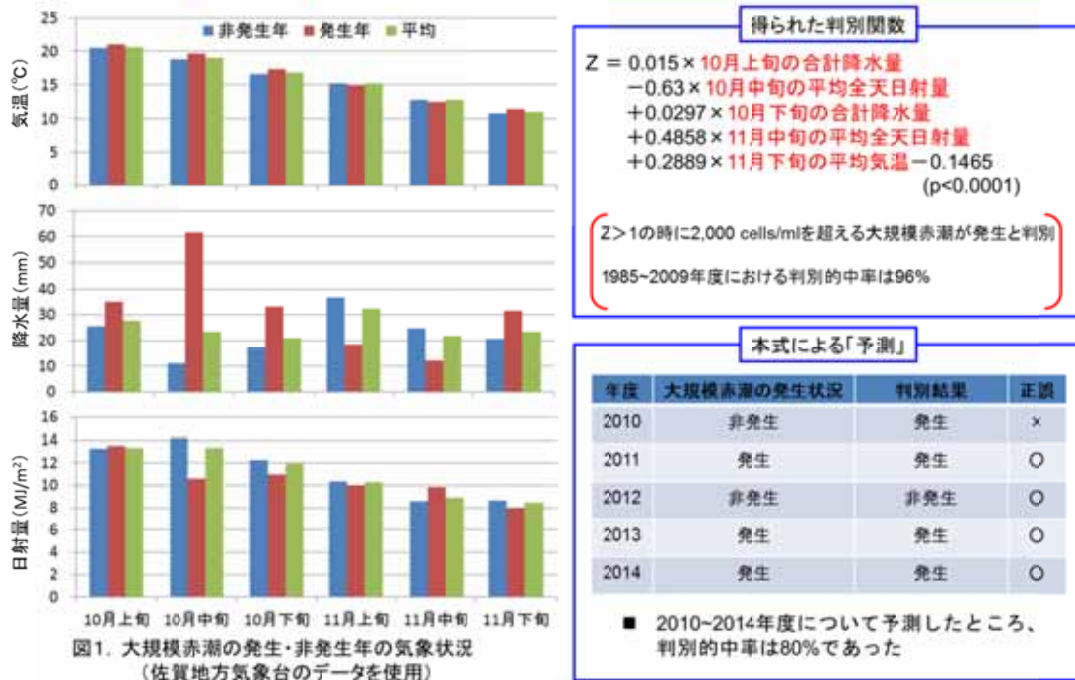
# 平成 27 年度水産研究成果情報

課題名: ノリの色落ち原因珪藻類ユーカンピアの発生規模の予察法の検討

## [背景・ねらい]

有明海佐賀県海域において、珪藻類ユーカンピア(学名 *Eucampia zodiacus*)によるノリの色落ち被害が問題となっている。大規模な赤潮が発生すればノリ養殖に甚大な被害をもたらすこと、また、一度大規模な赤潮が発生すると3~4年連続して発生する傾向があることから、赤潮規模の予察法の確立が求められている。そこで、最高細胞密度が2000cells/mlを超えた場合を大規模赤潮と定義し、1985~2009年度の25ヵ年における10~11月の佐賀市の気象条件と赤潮規模との関係について統計解析を行い、発生規模の予察法を検討した。

## [成果]



- 大規模赤潮発生年において、気温は10月・11月下旬に高めの傾向、降水量は10月中・下旬にかなり高め、日射量は10月中旬にかなり低めの傾向を示した。(図1)
- 1985~2009年度の25ヵ年の気象データを用いた統計解析の結果、上に示すような発生規模の判別関数が得られた。
- 得られた判別関数を用いて、解析に使用していない2010~2014年度の5ヵ年分について判別を試みたところ、判別の中率80%で大規模赤潮になるかどうかを判別することができた。
- 10月から11月の気象データにより、その年度の大規模赤潮の発生予察が可能であることが示唆された。

## [課題・問題点]

- ユーカンピアは2000cells/ml以下の小規模赤潮でもノリの色落ちを引き起こすため、被害軽減のためには、赤潮の非発生・小規模・大規模など目的変数の細分化が必要とされる。

## [今後の対応]

赤潮規模の定義を見直し、評価基準を設ける。

## [その他]

研究期間:平成27年~

研究担当:ノリ研究担当 中村愛子

公表:H27年日本プランクトン学会(秋) 口頭発表